

## 赤こんりポート

松村美沙枝リポーター



## 性の正しい知識で性犯罪を抑止

12月14日、はちはびひろばで「子育てサポーター養成講座 生命(性)教育のお話 地域でできることを考える」が開催されました。ネットで簡単に情報が共有できる昨今、家族や身近な大人が性について正しい知識を子どもに、しかも幼児期から教えることがとても大切だとのこと。講師の山本絹枝さんは「一人でも多くの人に知ってもらうことで地域全体の性犯罪抑止にもつながる。ぜひ大切な人に伝えて欲しい」と受講者に訴えかけました。子育てサポーター養成講座は全4回の講座で、2月にも開催予定だそうです。詳しくは、はちはびひろば ☎(38)5623 まで。

## 赤こんりポート

東恵子リポーター



## 小さなメダカの大きな輪

12月半ばのある日、出町在住の大学教員で滋賀メダカ愛好会代表の高木和久さんを訪ねました。

高木さんはさまざまなメダカの品種をかけ合わせ、目の大きなもの、ヒレの長いもの、アルビノ(色素が欠乏している種)などを産み育て、水槽だけでも300あるそうです。「ビッグアイ」は、名のとおり目が大きいのが特徴。ヒトの目で言うと近視や白内障などの遺伝子を持つメダカで、病気の研究のため、遺伝子解析にも使われているそうです。また、フリースクールの子どもたちにメダカを飼育してもらい、育てる喜びや仲間づくりにつながっていると言います。昨年は中止となりましたが、毎年6月に県婦人会館(G-NETしが奥)で滋賀メダカ愛好会が開いている「メダカ展示会」は、行列ができるほどの人気だそうです。人と人を結ぶメダカに、元気ももらいました。



## 赤こんりポート

今井良治リポーター

古本リサイクル「ゆっくぶっく」  
好評につき今年から開所は月4日間

市立図書館の廃棄図書や雑誌のほとんどを10円～50円程度の安価で販売する古本リサイクル「ゆっくぶっく」。近江八幡図書館2階の八幡山城資料室を利用し、近江八幡読書グループ連絡会の企画・運営で始まって約1年半、毎回、多くの本好きの老若男女でにぎわいをみせています。当初は約7,500冊でスタートしましたが、廃棄図書の補充や市民から寄付を受けた古本もあわせ約1万冊に増えました。さらに今年からは、これまでの第1土・日曜に第3土・日曜も加え毎月4日間開所し、利用者のニーズに応えることとなりました。年明け最初の開所日となった1月8日も、オープンと同時に待ちかねていた人たちが早速、お目当てのジャンルのコーナーで品定めをしていました。

12月27日

軟式野球の普及・振興、競技力の向上など  
長きにわたる功績で生涯スポーツ功労者表彰

市軟式野球連盟理事長の中島正峰さん(出町)が、文部科学大臣から生涯スポーツ功労者表彰を受賞されました。中島さんは、昭和45年から現在まで50年以上にわたり、軟式野球の普及・振興、競技力の向上に尽力。また、県の軟式野球連盟や野球審判協会の役員を歴任し、県内はもとより、全国の競技者、指導者への技術指導を通じたスポーツ振興に寄与するなど、人生の大半をスポーツを通じた地域振興に捧げられました。

12月25日

クリスマスなのに夏祭り!?  
灯に願いを込めて「あづフェス」開催

昨年8月に開催する予定が、コロナ禍で中止となったあづちサマーフェスティバル。子どもたちと一緒に楽しい思い出を作ることができれば、という思いで冬季に開催されました。ステージでは演奏やダンス、カラオケなどが披露され、体育館では幻想的で温かな灯りのスカイランタンが展示されました。まつりの最後には江州音頭の盆踊りが行われ、会場の中央に建てられた櫓の周りを、持参した傘を手に、お互い距離を取りながら老若男女が掛け声とともに踊り回り、冬の夜の夏まつりを楽しみました。

12月18日

近江八幡市で作られた楽器が奏でる  
弦楽四重奏コンサート

本市の姉妹都市であるイタリア・マントヴァ市で、国立音楽院弦楽団の首席ビオラ奏者を務める森脇崇さんから4人が演奏するクリスマス弦楽四重奏コンサートが旧伴家住宅とまちや倶楽部で開かれました。使われた楽器はいずれも、江頭町で工房を営む細野正洋さんが手掛けたもの。コンサートは、野外で聞くマントヴァのスタイルにならない、室内でも観客がコートと手袋を着用したまま行われました。パッヘルベルやバッハ、ビバルディのほか、作曲家のジノ・メスコリ自身がこの演奏会のために編曲を行った「愛のおとずれ(弦楽四重奏版)」が日本初演されました。この日に合わせて降ったかのような初雪が一層クリスマスムードを演出し、参加者は美しい音色に聞き入っていました。

12月24日

放課後児童クラブに  
手作りの木工おもちゃをプレゼント

池田町三丁目で建築業と木製玩具の製造を営む青木時彦さん綾子さん夫妻から、市内の放課後児童クラブ31か所に、すべて建築廃材で、国産のヒノキ・スギ・マツなど無垢の木材を利用した手作りの木工のおもちゃを寄贈いただきました。

八幡小学校の敷地内にある八幡学童保育所げんきクラブで行われた贈呈式で、時彦さんは「木も人もすぐに作り出せるものではなく、大切に育てられてきたものです。ものを大切に作る心、人を大切に作る心を学んでもらえたら」と話しました。

12月27日

桜並木づくりなど長きにわたる活動で  
林野庁長官賞を受賞

白鳥川周辺の環境整備や景観向上などに取り組む「白鳥川の景観を良くする会」が全国育樹活動コンクールで林野庁長官賞を受賞されました。同会は平成18年の発足から15年以上、白鳥川流域5km区間にわたる桜並木づくりや景観向上、子どもたちへの環境学習支援などの活動に加え、鯉のぼりの川渡しや羊の放牧など、市民の憩い場づくりにも取り組まれています。同会の吉田栄治会長は「これまで活動を継続することができたのは地域の皆様のご協力があったからこそ。会員の高齢化など課題もありますが、今後も地道に活動を続けていきたい」と話していました。